

「根岸線沿線九条の会」

2015年06月01日

作家の大江健三郎氏など、9名の文化人が「憲法九条」を守ろうと呼びかけた。「かながわ九条の会」の立ち上げの集會に2、3度出席した。私は地元の「港南区九条の会」と「港南台九条の会」に加わり、世話人の一人になった。以来、地道な活動が続けてきた。九条の会は地域に根ざした「草の根」の活動をしている。全国に7,500もの会ができていると聞く。根岸線沿線にも九条の会が生まれ、それぞれ独自の活動してきた。数年前から、連絡会を持っていたが、連携した活動はしてこなかった。昨年11月初めて、連携して活動しようと、駅頭で宣伝活動をした。磯子地域九条の会、森九条の会、洋光台九条の会、港南台九条の会、栄九条の会、大船九条の会の6団体が合同して行った。点が線につながって、大きな力を発揮し、勇気づけられた。

今年になって再度、根岸線沿線九条の会で、駅頭活動をしようと5月に、新杉田駅、洋光台駅、港南台駅、大船駅で行った。毎回20名以上のメンバーが集まり、リレートークをし、チラシを配り、署名を集めた。各会で行うとせいぜい4~5人であるが、20名くらいで行うと、チラシ配布も大幅に増える。今回も4駅で合計1,500枚くらい配った。署名は100筆ほど集まった。以前より、関心が高く、チラシの受け取り、署名も多く、話しかけてくる人も少なくない。安倍政権の戦争に引き込む政策に疑念を持つからであろう。

私も毎回、マイクを持ってリレートークに加わっている。私は牧師だから、聖書の言葉から話すようにしている。イザヤ書2章4節の「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」という言葉は国連の建物の壁に刻まれた、人類の希望をあらわしている。憲法九条の平和理念は、今から2,700年前にイザヤによって既に語られている。人を殺す「剣や槍」を打ち直して「鎌や鋤」に変え、農作物を作って皆で十分食べられれば、他国に対して「剣」を上げず、戦争しない平和を構築することができる。詩編85編11節に「慈しみとまことは出会い／正義と平和は口づけし」という言葉がある。人に対する慈しみ・愛は、まこと・真実が伴わなければならない。仲良しグループだけを愛するのではなく、考えや価値観の違う人を受け入れ合うことがまこと・真実である。そして、正義は一人歩きすると独善に陥る。平和と接吻して、はじめて共にある正義になりうる。憲法九条は慈しみとまことが出会い、正義と平和が口づけしたものである。また主イエスは、マタイ福音書26章52節で「剣を取る者は皆、剣で滅びる」と語っている。武力で立とうとした国々は武力で滅ぼされたことは歴史が証明している。武力でなく、平和の理念で共に生きる世界を作りあげていく。私は聖書の言葉から、平和を訴えている。

根岸線沿線九条の会は7月11日(土)午後7時から、杉田劇場で「音楽と講演のつどい」を催す計画を立てた。石井夕紀氏のヴァイオリンによる「リベルタンゴ」の演奏を聴き、慶応大学名誉教授の小林節氏の「憲法を守る方法」と題した講演を聞く。参加費は1,000円で、皆さんもぜひご参加ください。

国会で安保法案が審議されているが、政府の答弁は矛盾だらけで、シドロモドロである。米国の戦争に加担することに間違いはないが、自衛隊にリスクはないと言う。インド洋沖の給油支援、イラクのサマワに派遣された自衛隊員は、直接的な戦闘をしていないが、54人の自殺者を出している。戦争は極度の精神的な痛みを負わせる。安倍首相は国民の命と生活を守ると言うが、自衛隊員は国民ではないのか。若者を戦争に駆り立ててはならない。